

間歇的血液透析患者に対するバンコマイシン投与時の2回目以降の TDM（薬物血中濃度モニタリング）の必要性についての検討

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

バンコマイシンは薬剤耐性菌に対して頻用される抗菌薬ですが、有効かつ安全な血中濃度を維持するために血中濃度の測定が必要な薬物となっています。バンコマイシンの血中濃度と効果や副作用との関連性を示した報告は多く、目標とする血中濃度の範囲もガイドラインに示されています。

間歇的血液透析患者さんにおいても、目標とする血中濃度の範囲が示されていますが、バンコマイシンを長期に投与した場合に、複数回の血中濃度のモニタリングが必要かどうかの情報は限られている状態です。

本研究では、バンコマイシンが長期投与され血中濃度のモニタリングが複数回実施された間歇的血液透析患者さんの透析前濃度の推移を確認し、バンコマイシンを長期間投与する際に継続して血中濃度のモニタリングを行う必要があるか、また、透析前濃度の推移と透析を行う際の透析装置の設定などの間に関連性があるかを調査すること目的としました。本研究により、バンコマイシンの薬物治療を実施する上で、より精度の高い有効かつ安全な治療が可能になると考えます。

【対象】

当院において2022年4月～2024年3月の間にバンコマイシンの投与が開始され、血中濃度モニタリングを行った間歇的血液透析患者さん

【情報の利用目的及び利用方法】

バンコマイシン長期投与時の継続した血中濃度のモニタリングの必要性などを調査するため、カルテ情報の調査を行い統計学的な解析を行います。

【調査項目】

性別、年齢、体重、基礎疾患、合併症、バンコマイシンの投与量・投与期間、臨床検査値（WBC、PLT、BT、AST、ALT、ALB、CRP、透析前濃度）、透析装置の設定

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

2022年4月～2024年3月

【利用する者の範囲】

薬剤部 川端俊介

【試料・情報の管理について責任を有する者】

薬剤部 川端俊介

【研究期間】

実施許可日から 2025年 6 月 30 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究責任者】

川端 俊介

関西労災病院 薬剤部

〒660-8511 兵庫県尼崎市稻葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221 (代表)

FAX: 06-6419-1870 (代表)

E-mail : kawahata-shunsuke@kansaih.johas.go.jp